

第1学年 英語科学習指導案

日 時 平成20年11月20日(木) 第5校時
 生徒 1年4組(男子18名、女子14名、計32名)
 授業者 教諭 高橋 成 周

1 単元名：Unit8 はじめてのカナダ旅行（東京書籍 New Horizon English Course Book 1）

2 単元について

(1) 系統性

これまで、疑問詞は what, who, how many..., which などを学習してきたが、本単元では、where を用いた疑問文と、場所を表す前置詞を用いた応答文、whose を用いた疑問文と、mine, yours などの人称代名詞の所有格を用いた応答文、そして him, her などの人称代名詞の目的格をまとめて学習することにより、表現の幅を広げていく。

(2) 教材について

本題材は絵美、慎、マイク、ジュディの4人が冬休みにカナダへ旅行に行くという内容となっている。身近な日常から一歩外に出て、海外旅行に向かうという題材は、生徒が興味関心や意欲を持って学習できる内容であると考えられる。これから「起こりうるであろう」具体的な場面を設定することで、生徒が実際に話すことができるよう、ペアでのスキット作りや対話活動に積極的に取り組ませたい。

文法的項目としては疑問詞 Where, Whose、場所を表す前置詞、人称代名詞を全てまとめて扱う。使い方を理解させることにより、自分自身に関わることや身のまわりについて、「もっと英語で表現してみたい、伝えてみたい」という気持ちを喚起していきたい。

(3) 生徒の実態

男女とも分け隔てなく接し、躓いているクラスメイトをお互いに支え合う雰囲気ができている。挨拶や授業中のレスポンスなども積極的に英語で行おうとする。実践的コミュニケーション活動などにも一生懸命に取り組む。

◇1学年で取ったアンケート結果より。

		(%)			
	項 目	A	B	C	D
1	授業の中で、学習の課題は理解できましたか。	50	45	5	0
2	授業の内容に興味をもてましたか。	52	42	6	0
3	授業の内容は、理解できましたか。	30	56	14	0
4	先生の説明や、作業の指示は、わかりやすいですか。	54	39	7	0
5	ペアやグループ活動に積極的に取り組みましたか。	47	40	13	0
6	家庭学習で読み方や書き方練習を行いましたか。	44	40	16	0

A：とても思う B：そう思う C：そう思わない D：全然思わない

◇先ほど行われた学習定着度状況調査の結果は次の通りである。

観点	正答率	県平均
聞くこと	75.9%	80.4%
読むこと	53.3%	64.4%
書くこと	51.7%	56.1%

特に「書くこと」「読むこと」が課題である。「書くこと」については授業中の時間の確保、Gアップシート等を活用すること力を入れている。「読むこと」については授業でのフレーズリーディング等音読を重視した指導の工夫や業間や昼休みの教科書暗唱など、個に目を向けた取り組みも継続していきたい。また、辞書指導を見直し語彙指導や、辞書を活用し自学できる生徒の育成に努めていきたい。

(4) 指導にあたって

全てのパートでお互いに尋ねたり、答える言い方が盛り込まれている。音声面での指導（話す、読む活動）を中心に指導していきたい。生徒が興味を持てるように活用場面を意識した課題設定の工夫を心がける。スキットを作ったり、コミュニケーション活動に取り組んでいく中で、間違いをおそれず楽しい雰囲気の中で積極的に取り組む授業を工夫していきたい。書くことについては課題や「まとめと練習」、Gアップシートの取り組みを通して正確性を高めていく。

(5) 校内研究との関わり

本校では「自ら意欲的に学習する生徒の育成～基礎・基本の定着とそれを活用する学習過程の工夫を通して～」を研究課題に設定し5つの視点を基に研究・実践してきた。英語科としての5つの視点とは次の通りである。

- ①興味関心が持てる授業作りのため、活用場面を意識した導入を行う。
- ②目的意識が持てる授業作りのため、課題をしっかりと捉えさせるために、具体的なゴールを設定する。
- ③予想、見通しが立てられる授業作りのため、重要表現を「どのような場面で使えるか」を伝え、そのための活動を行う。
- ④所属感・貢献感が持てる授業作りのため、「聞く→話す→読む→書く」のすべての活動において学習形態を工夫し、他者と関わる場を確保する。
- ⑤進歩感・成就感が持てる授業作りのため、②で立てた明確なゴールを基にし、生徒が「これができるようになった」と自分で判断できる活動を設定する。そして教師が生徒の課題達成を評価する場を与える。また他者とのコミュニケーション活動を通して、自分の成長や仲間と共に向上できたと感じられるよう支援する。

コミュニケーション活動は「基礎・基本の定着を図るための活用場面」ととらえ、生徒が有用性を意識し、お互いが支え合い、関わりながら学習する活動に取り組むことで意欲的な生徒が育つであろうと考える。
本単元においては自分の持ち物がどこにあるか、物の持ち主についてたずねたり、答えたりすることができるようになり、さらに深く関わる表現を学ぶことができる。そのためにもスキット作りや会話練習などの活用場面を通して理解させ、定着を図りたい。

3 単元の目標

(1) 指導目標

- ・自分の持ち物がどこにあるか、また物の持ち主についてたずねたり、答えたりすることができる。
- ・どんな人か尋ねたり、答えたりすることができる。

(2) 単元の評価規準

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・疑問詞 Where, Whose、人称代名詞を用いて、場面に応じて会話を積極的に行おうとする。

【英語で表現する能力】

- ・疑問詞 Where, Whose、人称代名詞を用いて対話の中で正しく使うことができる。

【英語を理解する能力】

- ・疑問詞 Where, Whose、人称代名詞を用いた文の内容を理解することができる。

【言語や文化についての知識・理解】

- ・疑問詞 Where, Whose、人称代名詞の用法を理解し伝えることができる。
- ・海外旅行をするにあたり大事なことを考え、理解することができる。

4 単元の指導計画と具体の評価規準

次・時	学 習 活 動	評 価 規 準			
		コミュニケーション への関心・意欲・態 度	表現の能力	理解の能力	言語や文化について の知識・理解
1 (1.5) 本時	<p>【ものをさがそう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものがどこにあるか尋ねたりそれに答えたりすることができる。 ・Where ~?の文と応答の形・意味・用法を理解し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さがしものがどこにあるか尋ねる表現を間違いをおおれず積極的に使おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで探しものをする場面を考え、スキットを作り発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Where~?の文と応答の形・意味・用法を理解することができる。 	
2 (1)	<p>【だれのもの?】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものの持ち主について尋ねたり、それに答えたりすることができる。 ・Whose ~?の文と応答の形・意味・用法を理解し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの持ち主について尋ねる表現を積極的に使おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Whose~?を使った文をペアワークの対話の中で暗唱することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Whose~?の文と応答の形・意味・用法を理解することができる。 	
3 (1)	<p>【あの人知ってる?】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人について尋ねたり、それに答えることができる。 ・人称代名詞の目的格の形・意味・用法を理解し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人について尋ねる表現を積極的に使おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人称代名詞を使った文をペアワークの対話の中で暗唱することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・代名詞の目的格him/herの形・意味・用法を理解することができる。 	
4 (1)	<p>【まとめの練習2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人称代名詞の主格・所有格・目的格をそれぞれ目的に応じて適切に使い分けることができる。 ・人称代名詞の主格・所有格・目的格のそれぞれの意味や適切な形が説明できる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・人称代名詞を用いて、人を紹介する文を書くことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・人称代名詞の用法について理解することができる。
5 (0.5)	<p>【Listening Plus 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空港や機内での典型的な会話を聞いてポイントを正しく聞き取る事ができる。 ・空港や機内での典型的な会話についての基礎的な知識を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会話の内容を考えながら聞こうとしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・空港や機内での典型的な会話を聞いてポイントを正しく聞き取る事ができる。 	

5、本時について

(1) 本時の目標

- ・ Where ～? の文の応答の形・意味・用法を理解し、ものがどこにあるか尋ねたりそれに答えたりすることができる。
- ・ ペアでもものがどこにあるかを尋ねたり、それに答えるスキットを作り、発表することができる。

(2) 学習内容と具体的な評価規準・支援

学習内容	評価規準	具体の評価		規準の内容を実現していない生徒への対応・手だて
		十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	
・ ペアで探しものをする場面を考え、スキットを作り、発表する。	・ 作成したスキットを間違いをおそれず発表することができる。	・ 5文以上の対話文を作り、アイコンタクト・ジェスチャーを交えながら暗唱発表することができる。	・ ペアで協力しながらスキットを作り、練習し発表することができる。	・ 机間巡視しながら発表練習中に英作文・発音・表現について支援する。

(3) 本時の展開

過程	学習活動と5つの視点	学習活動および学習内容	○具体の評価規準 *指導の手だて
導入 5分	1 挨拶 2 基本文型の導入 【①興味関心】	1 挨拶をし、簡単な対話を行う。 2 VTRを見て、対話の内容を考える。	
課題 ものを探したり、どこにあるかを言えるようになろう			
展開 4 2 分	3 基本文型の確認 【②目的意識】 4 新出文型の定着練習 【③予想・見通し】 1) 文型ドリル 2) 教科書の内容確認と音読練習 【④所属感・貢献感】 5 言語活動 (ペアワーク) 活用場面 6 発表 【⑤進歩感・成就感】	3 PCを見て、英文を聞かせ、Where's ～? の使い方と前置詞の使いわけについて確認する。 4 定着練習をする。 1) Where's ～? の質問と応答練習を行う。 2) 本文を聞いて、内容を推測する。意味を考えながら音読練習を行う。 5 ペアで探しものをする場面を考え、スキットを作る。 6 発表する。 発表を聞き、コメントを記入する	繰り返してPCを見せながら英文を聞かせる。 ○PCを見て、Where's ～? を使った質問と、前置詞を使った文を話すことができたか。 【関・表・言】 ○しっかり声を出して音読しているか。【関・表】 *つまづいている部分を見つけ、アドバイスする。 *発表練習中に発音や表現について支援する。 ○作成したスキットを作成することができる。【関・表】
終末 3分	7 まとめ 8 挨拶	7 一言感想・評価を書く。 G アップシート等宿題の確認をする。	